

<表紙よりつづく>

この施設では室戸の深層水を利用してスジアオノリの陸上養殖を行い年間約1億円の売上である。既に実績があり、養殖の技術的リスクは少ない。

ジファスコローションは、海藻を利用したアクアポニックスシステムとして、アワビ等の養殖に利用する事を計画している。即ち海藻は寿司やおにぎりに使用されるアサクサノリを陸上養殖するシステムである。

寿司やおにぎりに利用される海苔は国内で100億枚が消費されている。市場規模は3000億円と見られる。真鶴でのアワビ養殖の実験装置は、このアクアポニックスシステムを採り入れる。

海藻はアワビ等を養殖する際に排泄される糞尿からでる窒素とリン及び呼吸により溶解する炭酸ガスを光合成により酸素に変え、窒素、リンを栄養として吸収し生長するので環境に優しく、その海藻を販売できるので養殖の利益改善につながる技術として、おいに広めたいと語っている。



▲ 発芽体集塊物(はつがたいしゅうかいぶつ)の培養



▲ 室戸の陸上養殖施設



海産物複合養殖の本格的事業化がスタート ジファスコローション(アワビ)と海の研究舎(海藻)が契約

世界最高生産国を誇るオーストラリアのアワビ陸上養殖技術を長年にわたって研究開発を行ってきた、JIFASの事業会社である株式会社ジファスコローションと、発芽体集塊物を使用した海藻の陸上養殖技術で定評のある有限会社海の研究舎は、去る3月12日海産物複合養殖を事業化することを目的に契約を締結した。



▲ 左 : 高知大学平岡助教授
中央:ジファスコローション谷口社長
右 : 海の研究舎 刈谷社長

この技術は、平成13年から3年間、平岡助教授が高知県深層水研究所に在籍していたときに、NEDO産業技術フェローシップとして採用された「海洋深層水に適した海藻品種の選抜と複合養殖システム」の研究成果であり、農林水産省の民間結集型アグリビジネス創出技術開発事業の補助対象にも選ばれている。ビジネスプランとして具現化した結果、沖縄県主催の「沖縄ベンチャービジネス大賞」奨励賞を受賞している。

同社は既に3年前から、平岡助教授の指導の下、室戸漁協に技術供与し、深層水を利用したスジアオノリの浮遊養殖を行い、収穫したスジアオノリを室

戸漁協と一緒に販売している。海藻養殖の陸上養殖では沖縄の海ぶどう等が知られているが、本技術では、アオノリ以外にコンブ、ワカメ、等、多岐に渡る海藻の養殖が可能である。

発芽体集塊物(はつがたいしゅうかいぶつ)は、海藻の胞子を集め1~5mmの塊状とし発芽させた「海藻の種」と考えれば分かり易い。この発芽体集塊物(はつがたいしゅうかいぶつ)を製造するバイオ技術を保有している。

室戸の陸上養殖施設ではこの「海藻の種」を水槽でエア攪拌し太陽光と温度管理をして養殖すると1日で1.4倍の速度で生長する。通常のアオノリを例にとると7日で10倍に生長するので、生長の状況を管理しながら1週間毎に水槽の大きさを10倍規模にして養殖し「海藻の種」から1000倍に生長させてから収穫する。



▲ 発芽体集塊物(はつがたいしゅうかいぶつ)から生長したスジアオノリ

<裏表紙へつづく>